

# 健康食品との 上手なつきあい方 ～被害を受けないための基礎知識～

## 名寄市 消費生活センター通信

問い合わせ 消費生活センター ☎01654②3575

近年、健康志向から健康食品を利用する方が増えています。体に良いと思っている健康食品も選び方や使い方を間違えると、健康を損ねることになります。表示の見方や選ぶときのポイント、製品の安全性を知って健康食品の基礎知識を学びましょう。



▲梅垣 敬三氏

- とき** 10月20日(土) 13:30～15:00
- ところ** 駅前交流プラザ「よろーな」1階大会議室
- 講師** うめがき けいぞう 梅垣 敬三氏  
昭和女子大学教授 / 薬学博士
- 対象** どなたでも参加できます
- 参加費** 無料  
※直接会場までお越しください
- 主催** 名寄市消費生活センター
- 後援** 名寄消費者協会



受講者には「くらしの豆知識」をプレゼント!(先着80人)

## 男女

共同参画社会の  
実現をめざして

### 「女に学問はいらない」?

2016年度の「男女共同参画社会に関する世論調査」によれば、家庭生活、職場、学校教育の場、政治の場など「各分野の男女の地位の平等感」を尋ねたところ、学校が「平等」だとする回答は66.4%で、他のどの分野よりも男女が平等だと考えられています。では学校教育のひとつである大学はどうでしょうか。

ある医学大学で女性受験者の得点が操作され、合格者数が抑制されていたことが明らかになりました。女性の医師に結婚・出産にともなう離職が多いことが背景にあるといます。そうであれば、これは単なる不正入試ではなく、性差別による学問の自由や職業選択の自由への侵害と言わなければなりません。「女に学問はいらない」の言葉に悔しい思いをしたことのある人は少なくないでしょう。しかし、それは決して過去の問題でも他国の問題でもないので。

2015年春の4年制大学への進学率(18歳人口を分母に、浪人を含む)は51.5%でしたが、男女別にみると男子55.4%、女子47.4%で1.17倍のひら

きがあります。都道府県別にみると、最も進学率の高い東京都(72.8%)では男女のひらきは1.02倍なのに対し、北海道は1.40倍と全国で最も男女差が大きいのです(男子48.3%、女子34.5%)。経済的状况などの影響もあるでしょうが「女子に高等教育はいらない」という意識が根強くあることがうかがわれます。

一方で、徳島県のように女子の進学率が男子を上回っている地域もあります。また、全国的には男子の進学率が55%前後で横ばいなのに対し、女子の進学率は上昇しており、2018年度には50%を超えています。

名寄市は早くから女子高等教育に力を入れてきました。栄養士や生活改良普及員、家庭科教員、保健婦などの専門職を送り出すことで道北地域の生活の向上を図ろうとしたのです。「女性の活躍」とは何か、わが街の歴史にも学び、あらためて考えてみたいものです。

おおさか ゆうじ 大坂祐二(名寄市男女共同参画推進委員会委員長)

**問い合わせ** 企画課 男女共同参画担当 (名寄庁舎3階)  
☎01654③2111 (内線3309)  
✉ ny-mwkyodo@city.nayoro.lg.jp